



オーストラリア・ワインとの25年

1987年にヴィレッジ・セラーズがオーストラリア・ワインを輸入し始め、今年で25年になります。その間、取引先のオーストラリア生産者が買収などにより世界規模での展開を進めるにあわせ、弊社もニュージーランド、USと取扱いワインの生産地が広がってきました。一方で、オーストラリアのピーターレーマン・ワインズが敵対的買収を逃げきる形で、ヘス・グループに買収してもらった関係で、カリフォルニアだけではなく、アルゼンチンのボデガ・コロメも扱うようになりました。また、昨年より取扱いを始めたシャンパニュのデュヴァル＝ルロワも、もともとはオーストラリアの蔵元が仲立ちになって、始めたことでした。このように、取扱いワインの産地が各地に広がっても、オーストラリア・ワインは、常にヴィレッジ・セラーズの中心アイテムです。

しかし、25年前は当然のこと、今でさえも、オーストラリア・ワインは、一般的に言って、売りやすいワインではありません。そんな中、オーストラリアの生産者団体が出資しているワインオーストラリア日本事務所は、オーストラリア・ワインに対する理解と販売促進を図るため、今年、オーストラリア・ワインのスペシャリストを認定するプログラムを発足させ、オーストラリア・ワインの「名誉スペシャリスト」(9名)、「トレード・スペシャリスト」(15名)、「エデュケーター」(4名)を認定しました。ヴィレッジ・セラーズも長年の功績として名誉スペシャリストと認められると共に、営業スタッフが論文提出や口頭質問による審査の後、「トレード・スペシャリスト」としての認定を勝ち得ました。



トレード・スペシャリストの表彰

このトレード・スペシャリスト審査は、以下の3つの設問に対し、論文で答えるものでしたが、その設題自体が、日本市場におけるオーストラリア・ワインの直面する困難さを如実に物語っていると思えます。

＜設問1＞ オーストラリア・ワインについてまだよく知らないお客様に対して、オーストラリア・ワインをどのようにアピールしますか？

＜設問2＞ 日本のワイン市場の嗜好や特性を考慮すると、オーストラリア・ワインにはどのような強みがあると思いますか？ 同時に、オーストラリア・ワインが抱える問題点や困難な点は何だと思いますか？

＜設問3＞ 上記2.で提示した方向性に従って、あなたは実際にどのような施策を行うことができますか。また、既に施策を行っている場合は、その内容やポイントについて説明してください。

この数年間、日本でのオーストラリア・ワイン認知度が格段に上がったとはいえ、「オーストラリア・ワインについてまだよく知らないお客様」は、私たちにとって、今でも、大前提です。シャンパニュのように「知っているようで知らない」ことではないですし、国産ワインのように「知りたい」と思われるワインでもありません。南極に近い南側の先端に沿って、大きな大陸の東から西まで、へばりつくように広がるオーストラリアのワイン産地は、ヨーロッパがすっぽり入るほどの広さがあります。一昔前は内陸の砂漠シーンが頻繁に広告に利用されることもあり、オーストラリアは平らな赤土の大地というイメージが強いですが、ワイン産地は起伏に富んだ地形と古代からの古い地層が特有の複雑な気候風土を形成して、それぞれの産地を表現したワインが多く造られています。

オーストラリア・ワインが直面する次の問題は、従前からある「全体的に濃い」という印象、つまり「樽が強い」、「アルコールが強い」、「果実が強い」などの固定概念です。

気候条件に恵まれたオーストラリアでは、確かにそのようなワインを造ることができますし、一時は市場のニーズに合わせて果実味豊かなフル・ボディ・スタイルが主流だったこともあります。しかし、科学的研究に裏打ちされたブドウ栽培の方法論の進化により、どの場所にどの品種をどのように栽培することで、どのような果実が得られるか、より明確にコントロールできるようになってきています。最近では、今流行の「クール・クライメット」にあわせて、より冷涼地や標高の高い場所に畠を作るなどして、ブドウがよりゆっくり時間をかけて成熟するよう仕向けられています。これも、収穫期に雨が少ないというオーストラリア特有の気候条件があつて可能なことです。

18世紀後半のイギリスからの移住により世界の流れに加わったオーストラリアは、その後、西欧だけでなく、特に第二次世界大戦後は、東欧、南欧、アジア、アラブからの移民が増え、4人に1人は外国生まれの、まさに文化のるつぼです。世界中の食材やスパイスが豊富にある日常生活は、多様な味覚を育みます。そのような生活シーンで生まれてくるオーストラリア・ワインが、おおらかさと繊細さをあわせもつ日本の市場の中で、もっと重宝がられても良いはずだと思っています。これからも、オーストラリア・ワインと共に、ヴィレッジ・セラーズの挑戦が続いていきます。

今後とも、ご愛顧のほど、よろしくお願ひ申し上げます！



Village Cellars
Wine of the World since 1987